第2次静岡市茶どころ日本一計画の進捗状況について

資料1

静岡のお茶に関する伝統、文化、産業等を守り、静岡市を日本一の茶どころとして育て次代に継承し、静岡のお茶に関する産業の振興及び市民の豊かで健康的な生活の向上を図ることを目的に、平成20年に「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」を制定。条例に基づき、目的達成のため「静岡市茶どころ日本一計画」を策定し、計画に沿って事業実施。

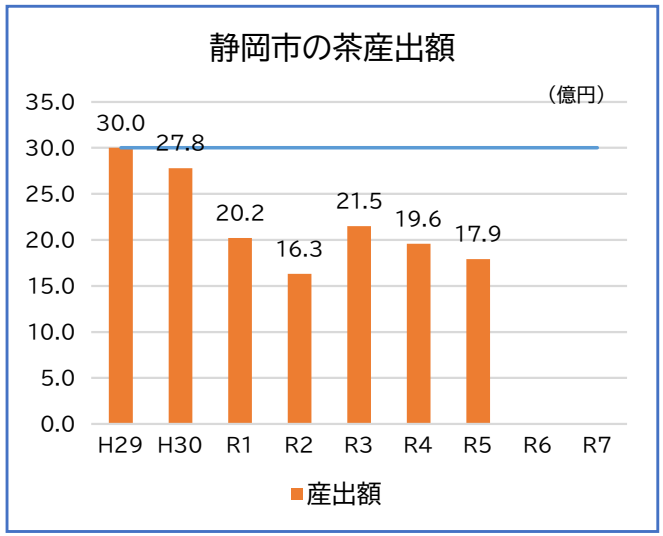
「第2次静岡市茶どころ日本一計画」を着実に推進するため、計画に紐づく具体的な事業を年度ごとまとめた実施計画を基に、進捗管理を行う。

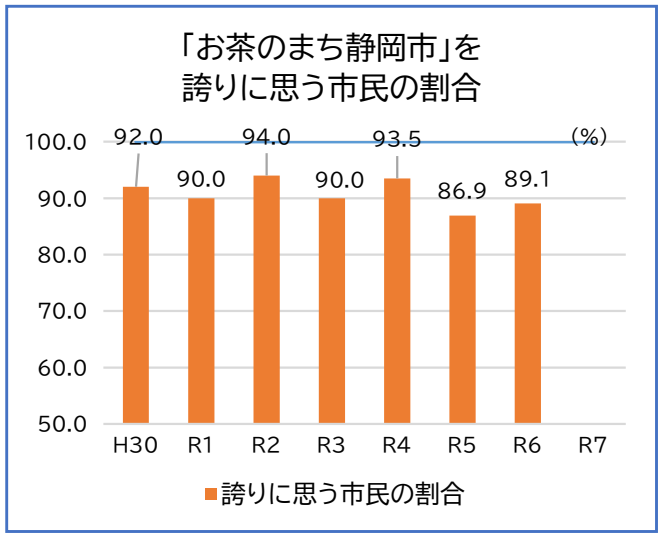
第2次計画：目標指標

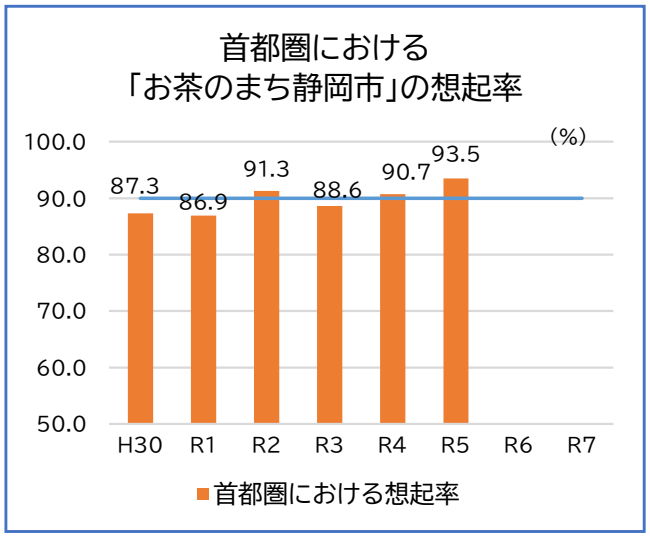
【計画期間：令和2年4月～令和13年3月（11年間）】

目指す将来像	目標指標	R12年度目標	R6年度 実績	R6年度 達成率	R6年度 達成度 ※1
茶業の成長産業化～収益力が高く、強く攻めの茶業への転換～	静岡市の茶産出額 ※2	30億円	17.9億円（R5）	59.7%	C
	「お茶のまち静岡市」を誇りに思う市民の割合 ※3	100%	89.1%	89.1%	B
	首都圏における「お茶のまち静岡市」の想起率 ※4	90%	―	―	―

※1 達成度の評価凡例
S：期待を上回る（105%以上） A：期待通り（90%以上105%未満） B：期待を下回る（70%以上90%未満） C：期待を大きく下回る（70%未満）
※2 出典：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」
※3 静岡市市政モニターアンケート調査
※4 東京都民への静岡市イメージ調査（広報課実施）をR5年度まで実施。R5年度実績値（93.5%）が目標値（90%）を超えているため、目標達成とする。



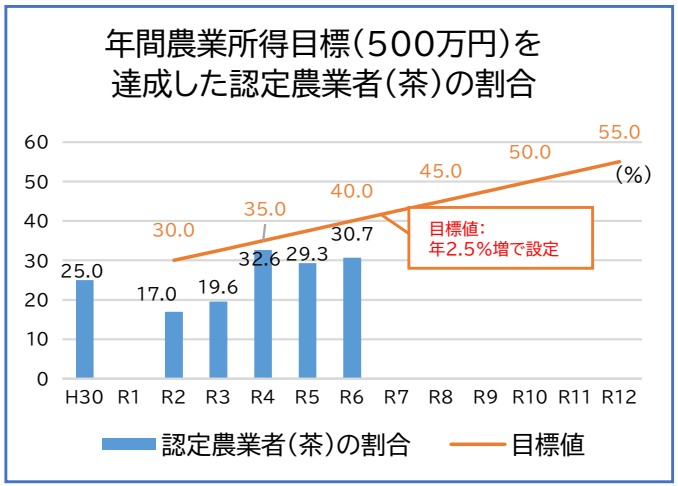


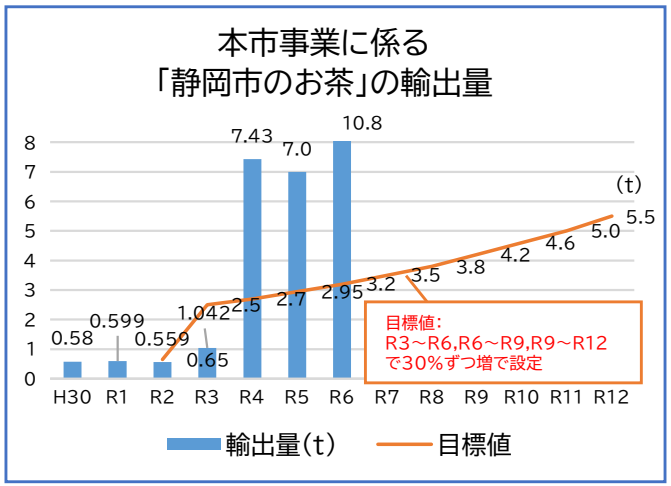


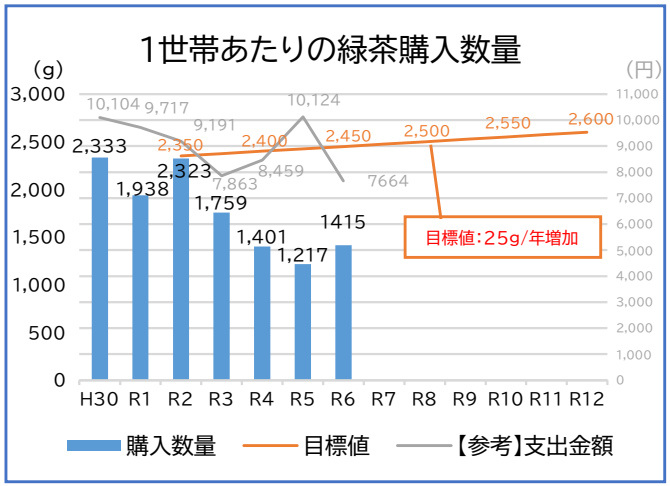
第2次計画：重点施策

重点施策		目標指標	R12年度目標	R6年度				R7年度	
				目標	実績	達成率	達成度※1	目標	実績
1	静岡市型茶経営基盤の整備・強化	静岡市が掲げる年間農業所得目標（500万円）を達成した認定農業者（茶）の割合 ※2	55%	40.0%	30.7%	76.8%	B	42.5%	－
2	海外輸出力の強化と推進基盤の整備	本市事業に係る「静岡市のお茶」の輸出量	5.5t	3.2t	10.8t	337.5%	S	3.5t	－
3	国内消費の拡大・新たな需要の創出	1世帯あたり緑茶購入数量 ※3	2,600g/年	2,450g/年	1,415g/年	57.8%	C	2,475g/年	－

※1 達成度の評価凡例
S：期待を上回る（105%以上） A：期待通り（90%以上105%未満） B：期待を下回る（70%以上90%未満） C：期待を大きく下回る（70%未満）
※2 資料：認定農業者経営改善計画（R5）
※3 出典：総務省 家計調査 家計収支編 二人以上の世帯







【総評】
・本市における一世帯当たりの緑茶購入数量は、R5年度1,217g（全国3位）⇒ R6年度1,415g（全国1位）へ増加。（全国平均：676g（R5）→671g（R6））
支出金額は、R5年度10,124円（全国1位）⇒ R6年度7,664円（全国1位）で日本一はキープしているものの、約25%減少。
（全国平均:3,214円（R5）→3,194円（R6））　【参考】静岡市の飲料（緑茶含む）支出金額　63,623円（R5）→66,603円（R6）

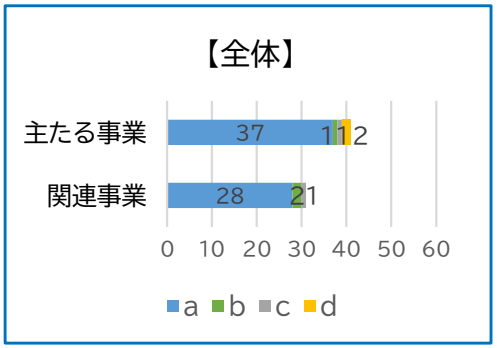
→本市における緑茶の購入数量は増加しており、依然として緑茶を日常的に消費する傾向が強いことがうかがえる。一方で、緑茶の支出金額は大きく減少しており、家計における節約志向の高まりや、安価な商品の選好といった動向が反映されている可能性がある。
また、飲料全体の支出額は増加していることから、緑茶の支出を抑え、他の飲料への支出が増加していることがうかがえる。

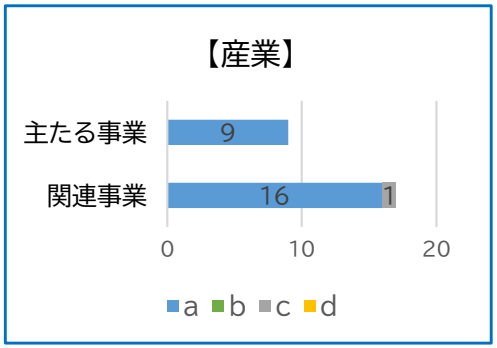
令和6年度実施計画及び実績報告

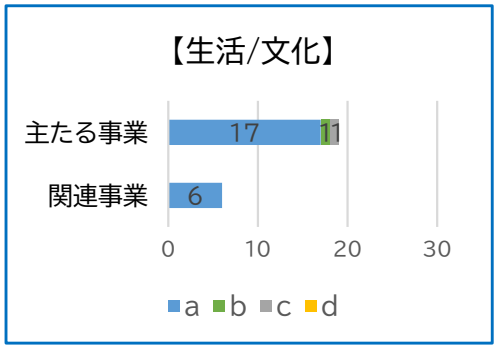
令和6年度実施計画に位置付けられた事業は延べ72事業

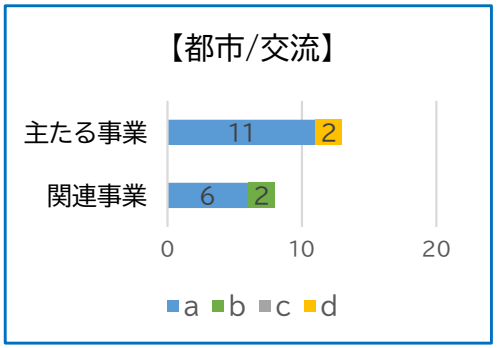
うち、主たる事業：41事業（事業対象が専らお茶に関わるもの）
関連事業　：31事業（事業対象の一部がお茶に関わる、
またはお茶に関する活動等に活用できるもの）

令和6年度	産業	生活/文化	都市/交流	合計
主たる事業	9事業	19事業	13事業	41事業
関連事業	17事業	6事業	8事業	31事業
計	26事業	25事業	21事業	72事業









評価基準　a：概ね計画どおり実施または完了　b：計画未満であるが実施　c：実施に向けて検討・調査中　d：未実施

未実施となった事業もあるが、主たる事業、関連事業ともに9割程度が評価a（概ね計画どおり実施または完了）であった。

令和7年度実施計画

令和7年度実施計画に位置付けられた事業は延べ72事業

うち、主たる事業：46事業（事業対象が専らお茶に関わるもの）
関連事業：26事業（事業対象の一部がお茶に関わる、
またはお茶に関する活動等に活用できるもの）

新規事業　茶産地総合対策事業（茶園改良整備事業（改植事業））
茶産地総合対策事業（有機JAS認証取得事業）
静岡市茶の有機JAS認証取得事業奨励金
茶畑ガイドシステム構築事業
茶農家受入環境整備補助金

令和7年度	産業	生活/文化	都市/交流	合計
主たる事業	12事業	19事業	15事業	46事業
関連事業	15事業	5事業	6事業	26事業
計	27事業	24事業	21事業	72事業

静岡市茶業の現状と課題

資料２

●2024年静岡市の緑茶支出金額・購入数量が全国１位
　静岡市の緑茶支出金額は7,664円（全国平均3,194円）、購入数量は1,415g（全国平均671g）と、いずれも全国平均の２倍以上であり、日常的に緑茶を消費する市民性がうかがえる。

●輸出の好調
　日本茶の輸出は毎年順調に伸長。農水省が公表した2025年５月の茶の輸出額は、前年の約２倍に拡大した。市内産についても、輸出量は増加している。

●静岡県の荒茶生産量の減少
　静岡県の2024年産の荒茶生産量は、前年比5.2%減の25,800t、鹿児島県は前年比3.4%増の27,000tであり、荒茶生産量について初めて全国一位の座を奪われた。また、2025年の荒茶（一番茶）生産量についても前年比18.8%減の8,120tで、1991年の統計開始以来過去最低。一番茶で初めて鹿児島県に逆転された。

●茶価の高騰
　煎茶の減産が影響し、茶価が高騰。一番茶でおよそ4割増、二番茶でおよそ２倍と、異例の高値となっている。

家計調査データ①

緑茶　支出金額【円】(県庁所在地・政令市別)

緑茶	2021年		2022年		2023年		2024年	
順位	地域区分	支出金額	地域区分	支出金額	地域区分	支出金額	地域区分	支出金額
1	静岡市	7,863	静岡市	8,459	静岡市	10,124	静岡市	7,664
2	相模原市	5,884	鹿児島市	5,611	佐賀市	5,047	浜松市	7,135
3	鹿児島市	5,786	長崎市	5,477	浜松市	4,865	宮崎市	4,801
4	浜松市	5,598	相模原市	5,077	宮崎市	4,750	長崎市	4,785
5	長崎市	5,484	佐賀市	4,897	北九州市	4,412	川崎市	4,687
	全国平均	3,530	全国平均	3,263	全国平均	3,214	全国平均	3,194

緑茶　購入数量【g】(県庁所在地・政令市別)

緑茶	2021年		2022年		2023年		2024年	
順位	地域区分	購入数量	地域区分	購入数量	地域区分	購入数量	地域区分	購入数量
1	静岡市	1,759	静岡市	1,401	京都市	1,276	静岡市	1,415
2	相模原市	1,278	浜松市	1,354	津市	1,224	浜松市	1,369
3	堺市	1,209	長崎市	1,174	静岡市	1,217	松山市	1,125
4	浜松市	1,205	相模原市	1,170	名古屋市	931	福岡市	1,085
5	鹿児島市	1,097	奈良市	1,136	宮崎市	920	福井市	981
	全国平均	759	全国平均	701	全国平均	676	全国平均	671

出典:家計調査(二人以上の世帯)＜品目分類＞各年の都道府県庁所在市別支出金額及び購入数量(2021～2024)

家計調査データ②

茶類　支出金額【円】(県庁所在地・政令市別)

茶類	2021年		2022年		2023年		2024年	
順位	地域区分	支出金額	地域区分	支出金額	地域区分	支出金額	地域区分	支出金額
1	千葉市	19,498	静岡市	19,374	静岡市	18,484	浜松市	18,829
2	前橋市	19,389	宇都宮市	18,227	宇都宮市	17,200	川崎市	18,789
3	横浜市	17,955	相模原市	16,800	川崎市	16,891	宇都宮市	18,383
4	さいたま市	17,242	横浜市	16,302	水戸市	16,879	静岡市	18,126
5	宇都宮市	17,026	川崎市	16,227	千葉市	16,540	千葉市	17,999
11	静岡市	15,403						
	全国平均	13,818	全国平均	13,683	全国平均	13,954	全国平均	14,442

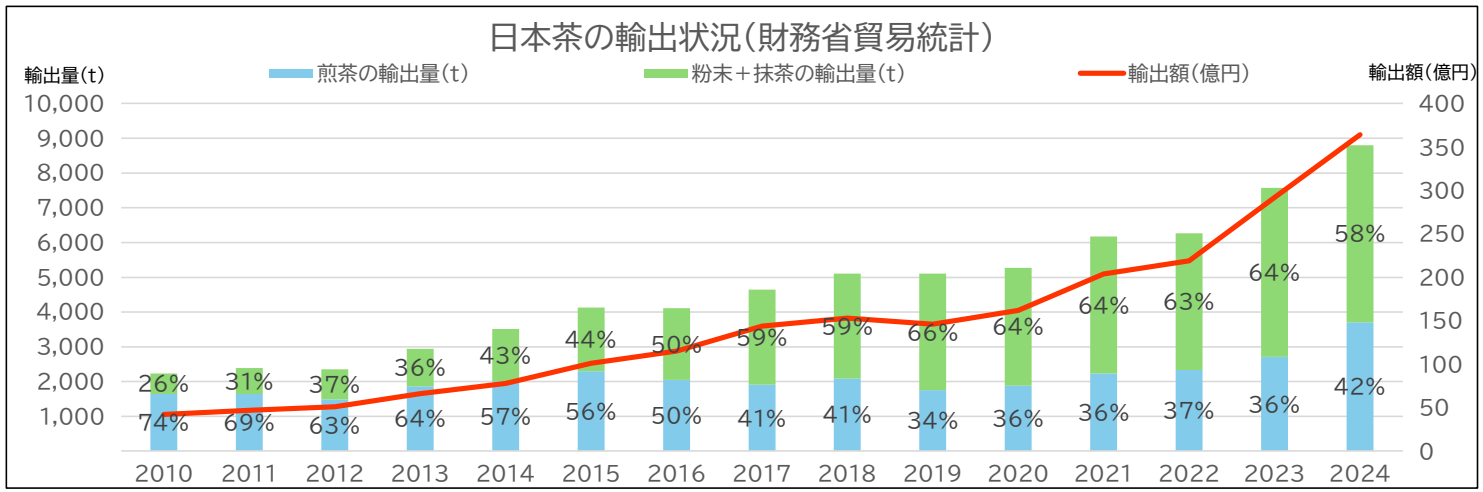
出典:家計調査(二人以上の世帯)＜品目分類＞各年の都道府県庁所在市別支出金額及び購入数量(2021～2024)

日本茶の輸出状況について

●日本茶の**輸出量は、**毎年順調に伸長しており、**近年は、毎年20%程度の伸び**を示している。
●煎茶と粉末状の比率は、輸出量がおよそ4対6、輸出額がおよそ3対7となっており、粉末状が高価格で取引されている。
●輸出される静岡市内産の多くは煎茶。全体の1%以下ではあるが、輸出量は増加している。

お茶の輸出状況(全国)		2022	2023	2024
輸出量		6,299t	7,579t	8,798t
	うち粉末状 ( )は比率	3,183t （50.5%）	4,290t （56.6%）	5,092t （57.9%）
	うち市内産輸出量(煎茶＋粉末状)	7t ※	7t ※	10.8t
輸出額		219億円	292億円	364億円
	うち粉末状 ( )は比率	147億円 （67.1%）	216億円 （74.0%）	272億円 （74.7%）

全国の日本茶の輸出量の出典:財務省貿易統計ほか
※市内輸出量は本市事業に関連した輸出量

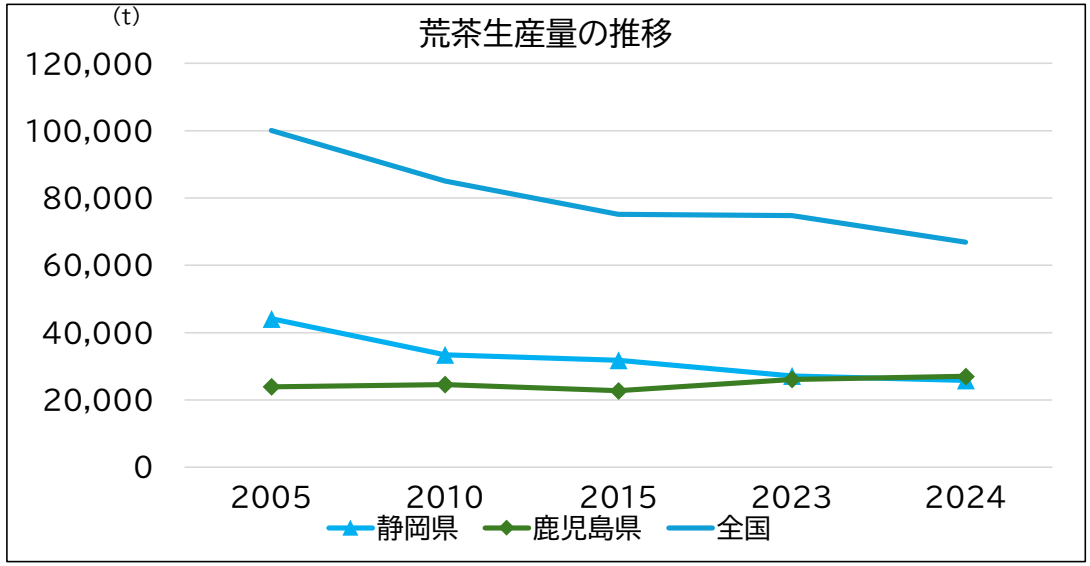


静岡県・鹿児島県における荒茶生産量の推移①

- 2023年までは静岡県が荒茶生産量全国1位を堅持してきたが、2024年に初めて鹿児島県に逆転された。
- 調査開始以降、全国の荒茶生産量の7割程度を静岡と鹿児島で占めている。

荒茶生産量	2005	2010	2015	2023	2024
静岡県	44,100	33,400	31,800	27,200	25,800
鹿児島県	23,900	24,600	22,700	26,100	27,000
全国	100,000	85,000	75,164	74,756	66,900

出典:2005～2023‥全国茶生産団体連合会調査、2024‥作物統計調査(農水省)　単位:t



静岡県・鹿児島県における荒茶生産量の推移②

- 2025年の荒茶（一番茶）生産量は前年比18.8%減の8,120トンで、1991年の統計開始以来過去最低。一番茶で初めて鹿児島県に逆転された。

	2005	2010	2015	2022	2023	2024	2025	
静岡	18,900	14,200	12,600	10,500	9,060	10,000	8,120	前年比▲18.8%
鹿児島	7,920	7,770	7,570	8,140	8,440	8,450	8,440	前年比▲0.1%

出典：農林水産省　作物統計　作物調査

静岡県・鹿児島県における仕上茶出荷額の推移①

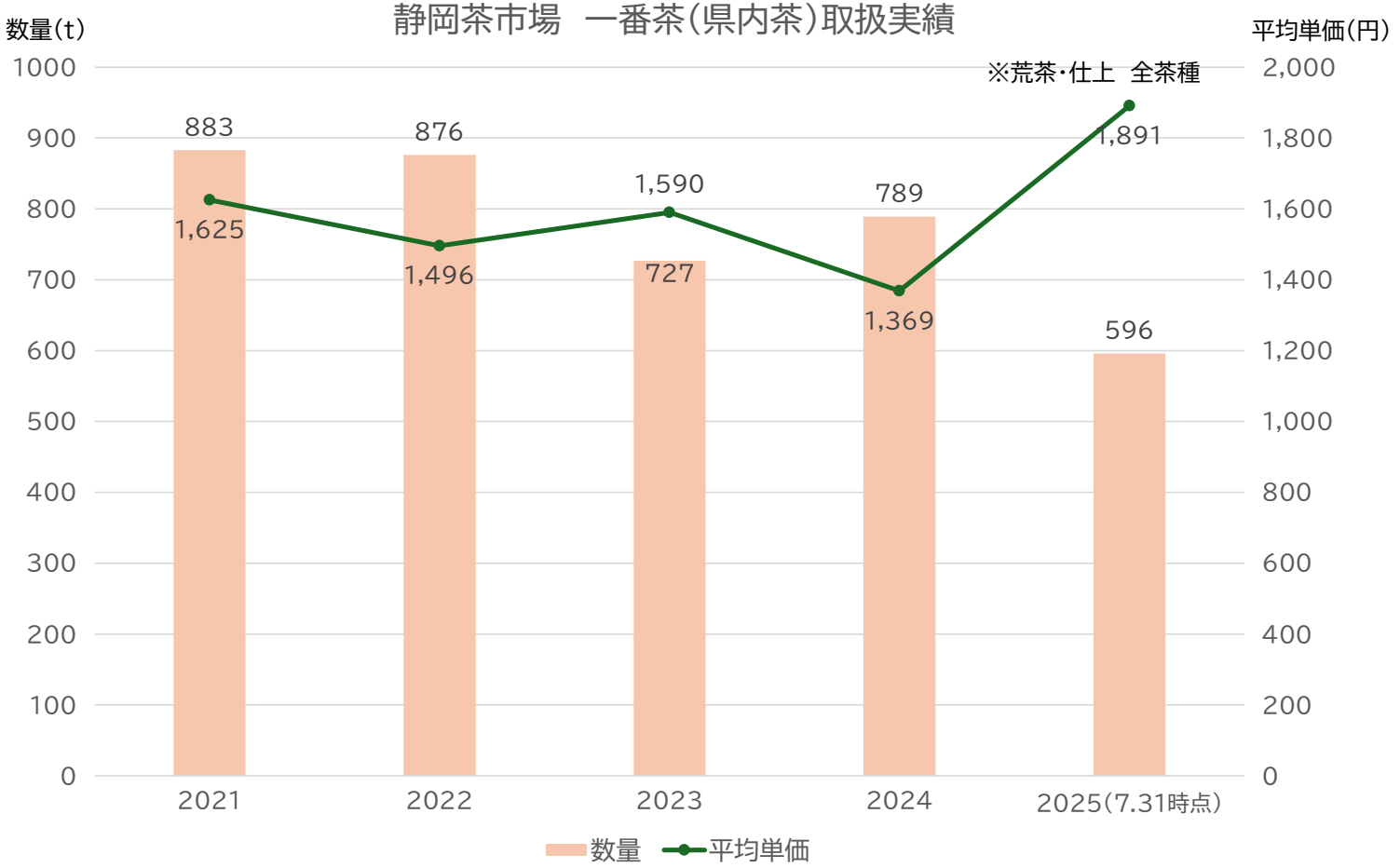
- 仕上茶の出荷額においては、静岡県は全国シェアの約55%を占め、鹿児島県の約12倍にも達している。

仕上茶出荷額　　単位：百万円

	2005	2010	2015	2020	2021	2022	2023
静岡	179,343	128,489	139,515	133,942	115,890	128,039	126,424
鹿児島	11,183	10,415	12,447	8,594	8,531	10,736	10,704

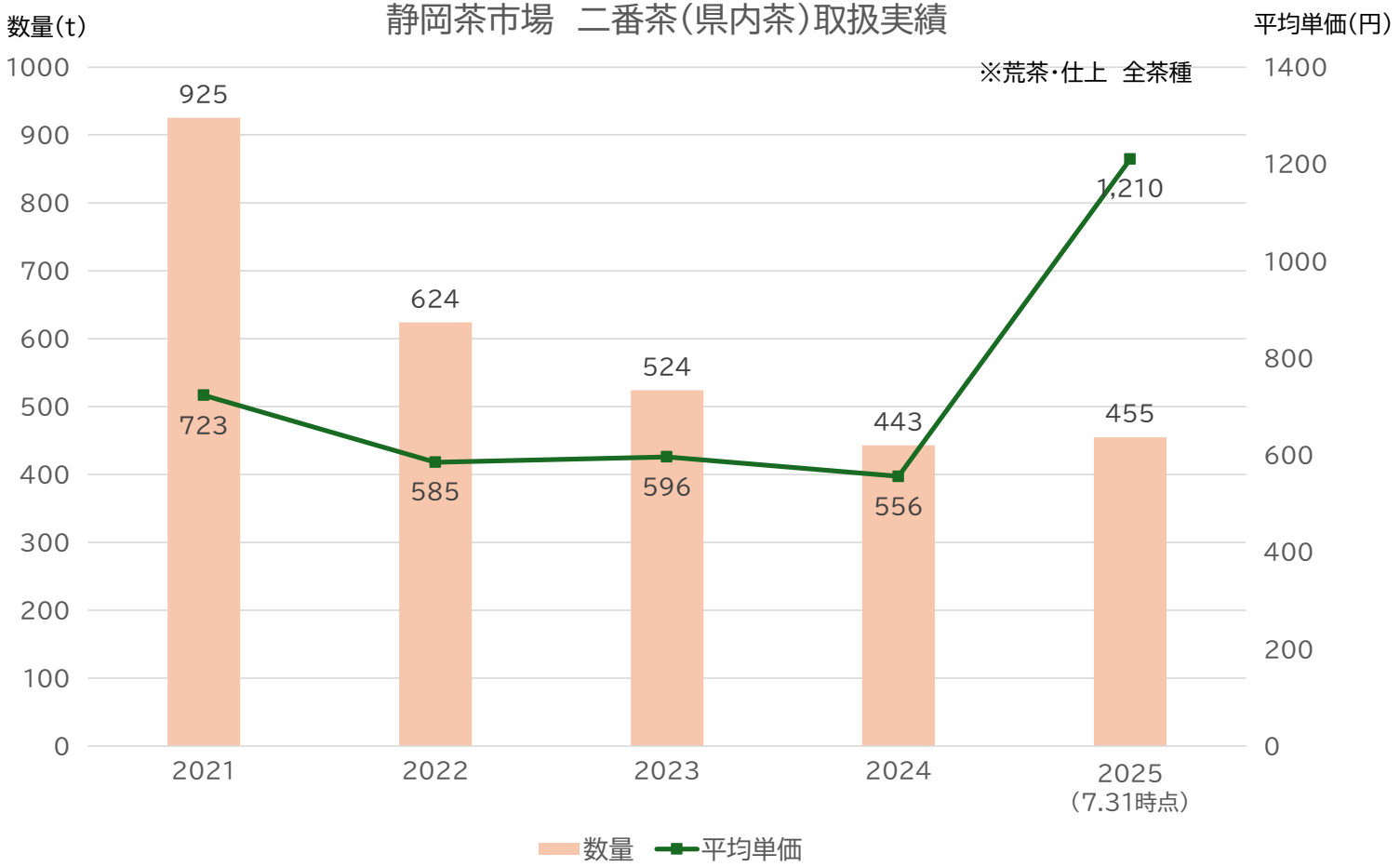
出典：経済産業省　工業統計表

静岡茶市場　取扱実績推移①



出典:㈱静岡茶市場　取扱実績累計

静岡茶市場　取扱実績推移②



出典:㈱静岡茶市場　取扱実績累計

静岡茶市場　取扱金額推移

茶期別取扱金額〔静岡茶市場〕　（単位：千円）

区分／年次	県内			県外		
	一番茶	二番茶	全茶期	一番茶	二番茶	全茶期
平2	7,785,919	1,600,472	9,534,505	4,071,428	840,487	5,224,240
7	8,273,406	2,173,000	10,902,724	3,711,684	1,031,956	5,262,919
12	6,843,016	2,153,187	9,462,216	3,468,462	1,379,083	5,699,003
17	5,614,664	2,272,117	8,633,503	3,183,470	1,327,082	5,727,040
22	4,190,487	933,286	5,502,553	2,244,175	784,948	3,299,124
23	3,431,586	830,197	4,611,841	1,769,794	821,027	2,892,718
24	3,452,326	731,177	4,470,004	1,990,014	561,761	2,960,512
25	2,726,965	922,596	3,937,097	1,616,403	604,046	2,610,189
26	2,682,840	695,235	3,642,194	1,624,062	503,464	2,408,686
27	2,273,110	495,274	3,011,689	1,190,331	335,411	1,759,022
28	2,255,390	594,992	3,161,810	1,165,104	365,803	1,860,122
29	2,058,975	721,115	3,207,072	1,181,032	428,040	2,099,007
30	1,994,175	744,688	3,148,007	994,210	371,826	1,802,098
令元	1,647,672	445,958	2,441,363	962,126	266,625	1,580,354
2	1,364,847	251,155	1,850,625	641,781	158,981	1,017,533
3	1,435,573	668,855	2,348,760	720,667	313,426	1,383,937
4	1,311,335	365,595	1,880,388	694,413	234,366	1,209,746
5	1,156,790	312,258	1,652,080	669,652	256,219	1,152,958
6	1,080,989	246,325	1,530,729	629,728	174,803	1,024,286

＊数値は全茶種の荒茶仕上茶合算値　（資料：静岡茶市場）

今後の茶業振興に向けた施策について

資料３

【現状・課題】

◇2005年→2020年で、茶経営体数は**約70%減**（2,761戸→851戸）、茶園面積は**約60%減**（1,834ha→714ha）、茶産出額は**約80%減**（93億円→16億円）であり、1経営体当たりの**農業収入は200万円にも満たない。**

◇茶の国内需要は縮小傾向であり、価格もこれまでの中長期的な推移としては低迷している。

＜現状の深堀り（市内の茶業者の特徴＞

1　高品質なお茶を小ロット生産する生産者 ➡経営良好	2　主に高品質な茶や碾茶等を扱う茶業者 ➡経営良好	3　大ロット生産者、慣行生産を続けている共同工場、生葉出荷者 ➡経営悪化

【気運】
世界的な抹茶ブーム・日本茶の輸出量は年々増加
有機茶など高品質なお茶に対するニーズの高まり

➡ 市場の顧客ニーズや顧客満足に対応し、収益性の高い商品の生産・販売を進める必要がある。
中長期的な供給力の強化や差別化による競争力の向上を図る必要がある。

【今後の取組】

今の需要に即応するために・・・

◇ **有機茶や碾茶への生産転換支援**（有機茶や碾茶生産に適した品種への改植支援、共同茶工場の碾茶炉導入支援 等）

◇ **輸出拡大支援**（海外にプラットフォームを設置し営業代行等を実施）

将来のために・・・

◇ **茶ツーリズムなどによる生産地としてのブランド力と収益力の向上**

◇ **静岡のリーフ茶（煎茶、和紅茶）の魅力を再構築**

令和７年度　主な茶業振興事業について

資料４

「第2次静岡市茶どころ日本一計画」で定めた3つの重点施策に基づき、本市が誇る「個性豊かな山のお茶」の生産から消費までを総合的に支援し、茶業の成長産業化を目指す。

茶業の成長産業化　～収益力が高く、強く攻めの茶業への転換～

生産 → 流通 → 消費

重点施策1　静岡市型茶経営基盤整備の強化・推進

KPI：年間農業所得目標500万円を達成した認定農業者(茶)の割合　25%(H30)⇒55%(R12)

品質・生産性向上

茶産地総合対策事業　持続性の高い茶生産体制の整備、茶の品質や生産性の向上を図るため、茶園の整備、製茶機械等の導入支援、改植支援等を実施する。

①	茶園改良整備事業：茶園等の生産基盤整備(園地改良・作業道整備・防霜施設新設等)に係る補助	3,000千円
②	茶園改良整備事業(改植事業)：碾茶生産に適した品種への改植に係る補助	10,000千円
③	加工施設機会整備事業：品質向上・生産性向上に資する荒茶/仕上茶加工機の導入・更新に係る補助	15,500千円
④	茶園管理資機材導入事業：茶園管理に必要な資機材(乗用茶園管理機、被覆資材等)の導入に係る補助	4,000千円
⑤	補完作物転換事業：茶園の一部を他の作物へ転換する経費の補助	1,500千円
⑥	防霜施設修繕事業：防霜ファン・棚式被覆等の修繕に係る補助	800千円

34,800千円





経営力強化

有機茶生産支援事業　・モデル圃場における土壌分析や経営収支調査等の実証を通じ、静岡市型有機茶経営モデルを構築する。
・有機JAS認証の取得に係る経費の補助や、新たに有機JAS認証を取得した圃場へ奨励金を交付する。

8,100千円

スマート農業技術活用産地支援事業　スマート農業推進を図るため、市内モデル経営体での実証を行う。

(5,000)千円

茶共済加入推進事業　茶生産者の経営安定とリスク軽減を図るため、茶共済制度への加入を促進する。

427千円

茶園集積推進事業　茶園の耕作放棄の防止及び保全のため、茶園を借り受けた茶工場等に対し、茶樹改良等の取組を支援する。

833千円



重点施策2　海外輸出力の強化と推進基盤の整備

KPI：本市事業に係る「静岡市のお茶」輸出量　0.58t(H30)⇒5.5t(R12)

海外販路開拓

輸出拡大支援事業　フランス・オーストラリアに茶業者に代わり営業代行等を行うプラットフォームを構築・運営し、商談の開催、契約、納品に至るまで継続的に支援する。

22,400千円



輸出拡大支援プラットフォーム構築事業【５市２町事業】　5市2町連携におけるスケールメリットや提案力を活用し、茶の最大輸出国であるアメリカにプラットフォームを構築・運営し、営業代行等実施する。

14,200千円



重点施策3　国内消費の拡大と新たな需要の創出

KPI：1世帯あたりの緑茶購入数量　2,333g/年(H30)⇒2,600g/年(R12)

普及促進茶文化継承

茶文化振興事業　お茶に触れる体験や文化を学ぶ機会を創出し、お茶を身近に感じられる風土を醸成するとともに、茶文化を継承する人材を育成する。

【主な取組】

①	お茶の美味しい入れ方教室(市内小学校5・6年生対象)の開催	3,512千円
②	愛飲促進事業(市内小学校4・5・6年生対象)の実施	20,000千円
③	静岡市「お茶の日(11月1日)」、「お茶に親しむ日(毎月1日)」周知事業の実施	1,231千円
④	駿府本山お茶まつり事業	3,000千円

27,743千円(左記のみ)



情報発信消費拡大

有機茶販路開拓支援事業　有機茶発信地域拠点の創出支援や、販路開拓に向けた商談会の開催・展示会への出展を行う。

989千円

「お茶のまち静岡市」HP活用事業　ホームページやFacebookで「静岡市のお茶」「お茶のまち静岡市」の情報を発信し、認知度向上とブランド力強化を図る。

935千円



ブランド強化

「お茶のまち静岡市」国内プロモーション事業　・市内外にて「お茶のまち静岡市」の認知度向上と「山のお茶」の販路・消費拡大を目的としたプロモーションを行う。
・本市のお茶のブランド力向上に向けた、マーケティング戦略の構築を行う。

10,982千円

茶畑ガイドシステム構築事業　お茶ツーリズムに取り組む茶農家が、新茶シーズンの繁忙期にも観光客を受け入れられるよう、茶畑ガイドの育成や手配を行う。【観光政策課】

5,000千円

茶農家受入環境整備補助金　観光客の満足度の向上のため、受入環境整備(トイレの改修等)に取り組む茶農家を支援する。【観光政策課】

5,000千円

